



に し し ょ う

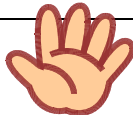
西小だより



HP はこちら→

「強く 正しく 健やかに」 令和6年 11月6日(水) 第10号 校長 都外川 潔
 11月は「児童虐待防止推進月間」、「ココロねっこ運動強調月間」です。

あなたの手は何のために使いますか？



昨日の全校朝会では、次のような話をしました。

先日、PTA の研究大会で、熊本県の方からのお話の中にとっても心に残る言葉がありましたので、西大村小学校のみなさんに紹介します。

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。

目は、人のよいところを見るために使おう。

耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。

手足は、人を助けるために使おう。

心は、人の痛みがわかるために使おう。



これは、熊本の学校に講演に来られた腰塚勇人さんが、全国で伝えておられる言葉です。腰塚さんは、中学校の体育の先生をしてもらったのですが、スキーの事故で首の骨を折り、歩くこともできなくなったそうです。大変ショックで、絶望されましたが、ご家族や、お医者様、看護師の方、生徒のみなさん、職場の先生方からたくさんの応援と励ましを受けて、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」と、「感謝」と、「周りの人々の幸せを願う」ことにより、奇跡的に回復され、4か月で学校に先生として復帰されたということです。(腰塚さんのホームページより)

腰塚さんは、数年前に大村市でもお話をしてくださり、私も聴いていたのですが、今回、あらためてこの言葉の大切さが心に響き、みなさんに伝えたいと思って、話しています。

今、私たちに命があること、手が動かせること、言葉が話せること…これらのことは当たり前ではなく、とてもありがたいことだと、私は思います。私は毎朝、ご先祖様に「今朝も私の命を続けさせていただき、ありがとうございます。」と、感謝して手を合わせています。

西小のみなさんには、一人一人にそれぞれのよさがあります。ただ、残念なことに、周りの人をたたいたり、人が傷つく言葉を言ったりする悲しいことも起こっています。あなたの手は、人をたたくために使うのではなく、人を助けるために使ってほしいと思います。あなたの口から出る言葉は、人を傷つける言葉ではなく、人を元気にしたり感謝したりする言葉であってほしいと思います。みなさんのご家族の方々も、きっとそう願っておられると思います。

暴力や暴言は、相手の心、相手のご家族の心、あなたの心、あなたのご家族の心、見ていた周りの人の心を傷つけます。暴力や暴言がない西大村小をみんなの力でつくりましょう。